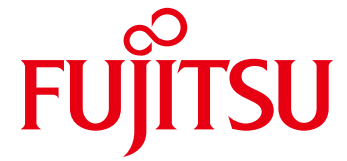


ユーザーガイド - 日本語



アナログ KVM スイッチ

ユーザーガイド





## ◆ 安全と使用環境についての注記



### 注意！

「安全上のご注意」に記載されている安全についての注意事項に従ってください。

### 安全にお使いいただくために

本書には、当製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本書は、本製品の使用中、いつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

### 消耗品の取り扱いについて

プリンタの消耗品やバッテリーを廃棄する際は、該当する国の規制に従ってください。

EU ガイドラインに基づき、分別されていない一般廃棄物と一緒にバッテリーを廃棄することはできません。

バッテリーは、メーカー、販売店、委任代理店が無料で回収し、リサイクルや廃棄を行っています。

汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に× 印）が付いています。また、以下のような重金属の化学記号も記載されます。

この記号が付いているバッテリーは、汚染物質を含むバッテリーとして分類されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

### プラスチックのケーシング部分に貼られたラベル

プラスチック部分には、お客様独自のラベルをできる限り貼らないでください。リサイクルが困難になります。

### 返却、リサイクルと廃棄

返却、リサイクル、廃棄を行う場合は、各自治体の規制に従ってください。



一般廃棄物と一緒にデバイスを廃棄することはできません。このデバイスには、欧州指令 2002/96/EC の電気・電子機器廃棄物指令（WEEE）に従ってラベルが貼られています。

この指令によって、使用済み機器の返却およびリサイクルの枠組みが設定され、EU 全土で有効です。使用済みデバイスを返却する際は、利用可能な返却および収集方式をご使用ください。詳細は、<http://ts.fujitsu.com/recycling> に記載されています。

ヨーロッパでのデバイスおよび消耗品の返却とリサイクルに関する詳細は、『Returning used devices』マニュアルにも記載しています。このマニュアルは、最寄の Fujitsu の支店で入手できます。

---

## 電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。VCCI-A

## 高調波電流規格への適用

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は高調波電流規格 JIS C 61000-3-2に適合しています。

## リサイクルと廃棄について

本製品を廃棄する場合、担当営業員に相談してください。本製品は産業廃棄物として処理する必要があります。

## ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

## 外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

# 目次

---

一般情報.....	1
概要 . . . . .	1
機能 . . . . .	1
安全について . . . . .	2
同梱部品の確認 . . . . .	3
要件 . . . . .	4
コンソール . . . . .	4
コンピュータ . . . . .	4
KVMサーバーモジュール（KVMアダプタケーブル） およびLANケーブル . . . . .	4
サーバーの最大接続数 . . . . .	4
各部の構成 . . . . .	5
前面 . . . . .	5
背面 . . . . .	6
据付.....	7
概要 . . . . .	7
幅 . . . . .	7
ラックへの取り付け . . . . .	7
ラックへの取付 - 背面 . . . . .	8
KVMスイッチのラックコンソール背面への取付（オプション） . . . . .	8
単一階層の KVM スイッチ取付 . . . . .	9
単一階層の取付図 . . . . .	9
複数の KVM スイッチの階層構造 . . . . .	9
チェーン階層取付をセットアップするには . . . . .	10
チェーン階層取付図 . . . . .	10

ハードウェアのセットアップ . . . . .	11
ケーブル長に関する注意事項 . . . . .	11
ホットプラグ . . . . .	11
電源オフおよび再起動 . . . . .	12
ポート ID のナンバリング . . . . .	12
 アナログKVMスイッチの交換手順 . . . . .	 13
 オンスクリーンディスプレイ（OSD）操作 . . . . .	 14
概要 . . . . .	14
OSD（オンスクリーンディスプレイ） のナビゲーション . . . . .	15
OSD メイン画面の見出し . . . . .	16
OSD（オンスクリーンディスプレイ）の各機能 . . . . .	16
F1:GOTO . . . . .	16
F2:LIST . . . . .	17
F3:SET . . . . .	18
F4:ADM . . . . .	20
F5:SKP . . . . .	22
F6:BRC . . . . .	22
F7:SCAN . . . . .	23
F8:LOGOUT . . . . .	23
 ホットキーの操作 . . . . .	 24
ホットキーポート制御 . . . . .	24
Hotkey モードの起動 . . . . .	24
[ NUM LOCK ] + [ - ] . . . . .	24
[ CTRL ] + [ F12 ] . . . . .	24
Hotkey モードの環境 . . . . .	24
Hotkey モードの終了 . . . . .	25
有効なポートの選択方法 . . . . .	25
Auto Scan モードの切り替え . . . . .	25
スキャン間隔の設定 . . . . .	25
自動スキャンの起動 . . . . .	26
自動スキャンの終了 . . . . .	26
Skip モードの切り替え . . . . .	26
スキップモードの開始 . . . . .	26
Skip モードの終了 . . . . .	26

Hotkey ビープ音のオン / オフの設定 . . . . .	27
Hotkey のキーの組み合わせの設定 . . . . .	27
OSD Hotkey の組み合わせの設定 . . . . .	27
Port Operating System の設定 . . . . .	28
デフォルト値の復元 . . . . .	28
ホットキーの早見表 . . . . .	29
<b>キーボードエミュレーション . . . . .</b>	<b>30</b>
Mac キーボード . . . . .	30
Sun キーボード . . . . .	31
<b>トラブルシューティング . . . . .</b>	<b>32</b>
概要 . . . . .	32
OSD の工場デフォルト設定 . . . . .	33
接続テーブル . . . . .	33
KVM0108A . . . . .	33
KVM0116A . . . . .	33
<b>仕様 . . . . .</b>	<b>34</b>
<b>電波障害 . . . . .</b>	<b>35</b>

# Material declaration of BSMI

設備名稱：類比KVM切換器 8埠；類比KVM切換器 16埠，型號（型式）：KVM0108A; KVM0116A						
單元 Unit	限用物質及其化學符號					
	鉛Lead (Pb)	汞Mercury (Hg)	鎘Cadmium (Cd)	六價鉻Hexavalent chromium (Cr <sup>+6</sup> )	多溴聯苯Polybrominated biphenyls (PBB)	多溴二苯醚Polybrominated diphenyl ethers (PBDE)
電纜線 Cable	○	○	○	○	○	○
印刷電路部件 PCBA	—	○	○	○	○	○
電源模組 Switching Power module	○	○	—	○	○	○
塑膠/其他部件 Plastic /Others parts	○	○	○	○	○	○
金屬部件 Metal parts	—	○	○	○	○	○
備考1. “超出0.1 wt %” 及 “超出0.01 wt %” 係指限用物質之百分比含量超出百分比含量基準值。 備考2. “○” 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。 備考3. “—” 係指該項限用物質為排除項目。						

## Caution / Warning

警告使用者：

這是甲類資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當對策。

# 一般情報

## 概要

### KVM0108AおよびKVM0116A KVMスイッチ

KVMスイッチを使用すると、管理者は1つのUSB KVM（キーボード、ビデオ、およびマウス）コンソールから複数のサーバーにアクセスし管理することができます。ソフトウェアを設定する必要はありません。

製品型番	ローカル接続	リモート接続	KVMポート
KVM0108A	1	0	8
KVM0116A	1	0	16

- 自動検出機能により、設置されている各ステーションの位置を認識するため、手作業で位置を設定する必要がなくなり、前面パネルのLEDに各ステーションの位置が表示されます。

## 機能

- 簡単なインストールと操作：プラグアンドプレイインストール。ソフトウェアが不要。ステーション位置の自動認識。コンピュータの選択は、ホットキーまたは多言語対応のオンスクリーンディスプレイ（OSD）メニューを使用して行われます。
- 単一コンソールでの制御：1つのUSB KVM（キーボード、ビデオ、およびマウス）コンソールから最大8台（KVM0108A）または16台（KVM0116A）のサーバーにアクセスし管理することができます。
- 拡張性：最大31のスイッチに接続。KVMコンソールから最大512台（KVM0116A）のサーバーを管理。
- 簡単なインストール：ケーブルを該当するポートに接続。ソフトウェアを設定する必要はありません。
- ハードウェアに依存しないクロスプラットフォームのサポート。
- RJ-45コネクタおよびCat 5e/6の配線：KVM0108AまたはKVM0116Aは、1Uシステムラックに設置可能。現代のほとんどの商業ビルの内部ネットワーク配線を利用。
- KVMアダプタケーブルをサーバーに接続。KVMスイッチとデバイスの接続にUSBインターフェイスの混在が可能。
- 強力なパスワード保護により不正なアクセスを防止。
- 複数のユーザーアカウント：最大10のユーザーと1つの管理者アカウント。
- 自動スキャンおよびブロードキャストモード：自動スキャンにより選択したデバイスを簡単にモニタリングでき、スキャン間隔を変更可能。ブロードキャストモードにより、コンソールからすべてのコンピュータにコマンドを送信。ソフトウェアのインストール、アップグレード、およびシャットダウンを同時に実行。

- 高品質ビデオ：KVMケーブルアダプタによる最大解像度1600x1200@60hz（最長40 m）、および1280x1024@75hz（最長50 m）。
- ホットプラグ対応：KVMスイッチを電源オフにすることなくコンポーネントを追加および削除。
- IDによるサーバーモジュール（アダプタケーブル）の識別：KVMスイッチによる新しいKVMケーブルアダプタの自動認識。デバイスIDおよび属性がアダプタケーブルに保存されることにより、属性を再設定することなくポート接続のホットスワップが可能。

## 安全について

以下の説明をすべてお読みください。このマニュアルは後に参照できるよう保管しておいてください。機器に表示されているすべての警告および手順に従ってください。

### ⚠ 危険

#### 感電注意

- 本製品を水の近くで使用しないでください。本製品に水をこぼさないように注意してください。
- クリーニングを行う前に本製品の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。液体またはスプレー洗剤は使用しないでください。クリーニングには湿らせた布を使用してください。
- デバイスには、表示ラベルに記載されている電源タイプを使用してください。使用可能な電源タイプがよく分からない場合は、販売店または地域の電力会社にお問い合わせください。
- 設備の損傷を防止するには、すべてのデバイスが適切に接地されていることが重要です。本製品は、3極接地タイププラグを備えています。これは安全のための機能です。プラグをコンセントに差し込むことができない場合は、電気技術者に依頼してコンセントを交換してください。接地タイププラグを本来の用途以外に使用しないでください。必ず地域/各国の配線規定を順守してください。
- 本製品に延長コードを使用する場合は、このコードで使用するすべての製品のアンペア定格の合計が、延長コードのアンペア定格を超えないようにしてください。コンセントに接続されているすべての製品の合計が15アンペアを超えないようにしてください。
- 電力の突然の一時的な増減から本機器を保護するには、サージ抑制器、ラインコンディショナ、または無停電電源装置（UPS）を使用してください。
- システムケーブルや電源ケーブルは気をつけて配置してください。ケーブルの上に何も置かないように注意してください。
- 絶対にキャビネットのスロットから物の中に押し込まないでください。物が危険な電圧部分に接触したり、部品がショートしたりして火災や感電の危険があります。
- このパッケージに同梱されている電源コードを使用してください。このパッケージに同梱されているコードを交換する必要がある場合は、元のコードと少なくとも同等の規格のコードを使用してください。電源コードの詳細については、販売店にお問い合わせください。
- お客様ご自身で修理を行わないでください。資格を持つ技術者に修理を依頼してください。

これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または死亡につながるおそれがあります。



## ▲ 注意

### 人身傷害または機器の破損

- “UPGRADE”のマークが付いたRJ-11コネクタを公共の通信ネットワークに接続しないでください。
- ラックで作業する前には、スタビライザ等でラック床面に対して固定されていること、および床面にラックの全負荷がかかっていることを確認してください。ラックで作業する前に、単独のラックには前面/側面スタビライザを、結合した複数のラックには前面スタビライザを取り付けてください。
- コンポーネントは常に下から、重いものから順にラックへ設置してください。
- ラックからデバイスを引き出す前に、ラックが水平であり固定されていることを確認してください。
- デバイスのレール開放ラッチを押してデバイスをラックから出し入れするときは注意してください。スライドレールに指が挟まれるおそれがあります。
- デバイスをラックに挿入した後は、ロック位置までレールを延ばしてからデバイスをラック内にスライドさせます。
- ラックに電源を供給するAC電源分岐サーキットが過負荷にならないようにしてください。ラック全体の負荷は分岐サーキット定格を超えてはいけません。
- 電源ストリップやその他の電気コネクタを含むすべての機器が適切に接地されていることを確認してください。
- ラック内のデバイスに適切な風量が行き届いていることを確認してください。
- ラックの動作環境温度がメーカーによって指定された機器の最大環境温度を超えないように注意してください。
- ラック内のデバイスの修理中に、ほかのデバイスを踏んだりその上に立ったりしないでください。
- デバイスを不安定な場所に置かないでください。デバイスが落下した場合、重大な損傷が発生します。
- 換気口を塞がないでください。内部コンポーネントが過熱する恐れがあります。
- 電源コードやケーブルは、踏まれたりつまずいたりしないように配線してください。

これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または機器の損傷につながるおそれがあります。

## 同梱部品の確認

- KVM0108AまたはKVM0116A KVMスイッチ ×1
- ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ラックマウントブラケット ×1
- M5ねじおよびナット ×4
- マニュアル類:ご使用前に、クイックスタートガイド、Safety NotesおよびChina ROHS

# 要件

## コンソール

- ・ ご使用の設定環境で使用するコンピュータの最高解像度要件に対応するVGA、SVGA、またはマルチシンクモニター。
- ・ USBマウス/キーボード

## コンピュータ

以下の機器をKVMスイッチポートに接続するサーバーに取り付ける必要があります。

- ・ VGA、SVGA、またはマルチシンクポート
- ・ タイプA USBポートおよびUSBホストコントローラ

## KVMサーバーモジュール（KVMアダプタケーブル） およびLANケーブル

- ・ KVMスイッチをKVMアダプタケーブルに接続するには、Cat 5e/6ケーブルが必要です。
- ・ 以下のKVMアダプタケーブルが、KVMスイッチを使用するために必要です。

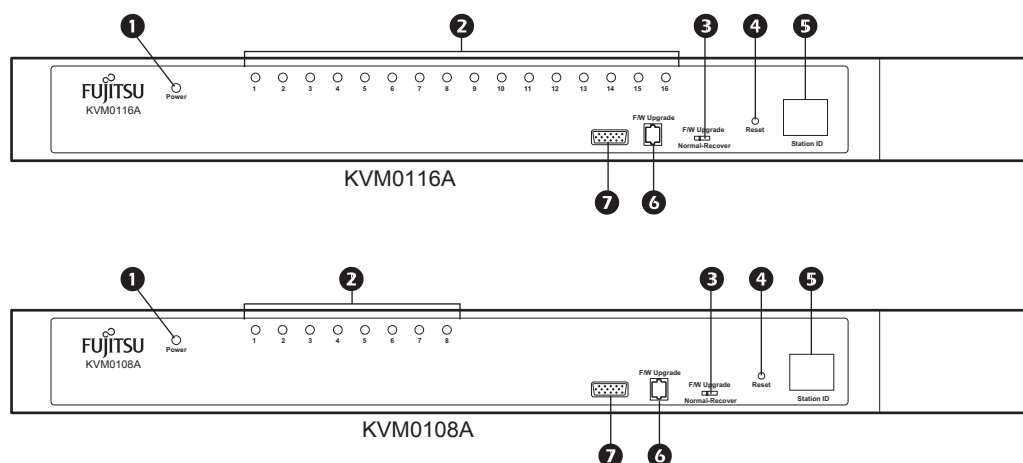
モジュール	機能
PY-CBKAU11	USB KVMアダプターケーブル
PY-CBKCC1	KVMケーブル(カスケード接続用、1.8m)

## サーバーの最大接続数

ベースステーション KVMモデル	ポート	チャイルド KVMの階層構造	ポート	最大接続数（階層構造）	チェーン接続
KVM0108A	8	KVM0108A	8	256	32
KVM0116A	16	KVM0116A	16	512	32

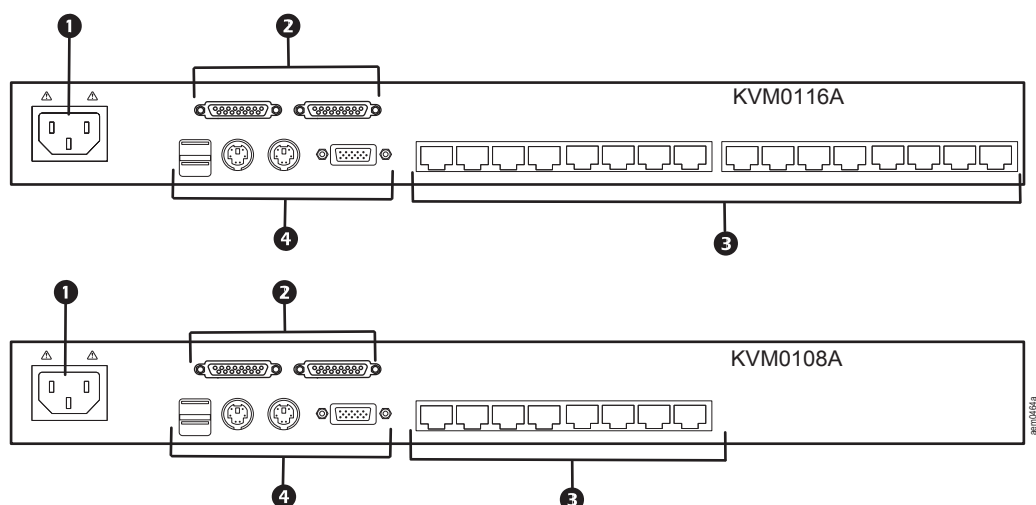
# 各部の構成

## 前面



番号	構成部品	説明
①	Power LED	このLEDが点灯しているときは、KVMスイッチに電源が投入され動作可能な状態であることを示します。
②	ポートLED	<p>ポートLEDには、対応するKVMポートに関するステータス情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑:ポートに接続されているサーバーがオンラインであることを示します。</li> <li>・赤:ポートに接続されているサーバーが選択されている（KVMフォーカスがある）ことを示します。（接続サーバーはオフライン）</li> <li>・緑 + 赤（オレンジ）: ポートに接続されているサーバーがオンラインであり、選択されていることを示します。</li> </ul> <p>このLEDは通常の状態ですべて点灯します。対応するポートがAuto ScanモードまたはSkipモードでアクセスされている場合は、0.5秒の間隔で点滅します。</p>
③	ファームウェアアップグレード復元スイッチ	通常運転中およびファームウェアアップグレード中は、このスイッチは「NORMAL（左端）」位置にあります。
④	リセットスイッチ	<p>このスイッチは埋め込み式になっており、ペーパークリップやボールペンなどの先の細い物で押す必要があります。システムリセットを実行するには、ユニットの動作中に押して放します。</p> <p><b>注意:</b> これによりユーザーアカウント情報が消去されることはありません。</p>
⑤	Station ID LED 表示	<p>KVMスイッチのステーションIDがここに表示されます。このステーションが単一ステーション構成または設定環境における最初のステーションである場合は、KVMスイッチIDは「01」になります。</p> <p>階層構成の場合は、KVMスイッチはステーションの位置を自動検出し、設定環境におけるステーションの位置に対応するステーションIDを表示します（「ポートIDのナンバリング」（12ページ）を参照）。</p>
⑥	ファームウェアアップグレードポート	管理者のコンピュータからKVMスイッチにファームウェアアップグレードデータを転送するファームウェアアップグレードケーブルは、このRJ-11コネクタに接続します。（本装置では使用しません）
⑦	コンソールポート	本装置では使用しません。

## 背面



項目	構成部品	説明
①	電源ソケット	AC電源への電源コードはここに接続します。
②	チェーンイン/ アウトポート	KVMスイッチをカスケード接続する場合は、ケーブルをここに接続します (「複数のKVMスイッチの階層構造」(9ページ)を参照)。 左側のポートは、チェーンインポートであり、右側のポートはチェーンアウト ポートです。
③	KVMポート の選択	KVMアダプタケーブル(コンピュータに接続)に接続するCat 5e/6ケーブル は、ここに接続します。
④	コンソール ポート	このステーションが単一ステーション構成である場合、または階層構成におけ る最初のステーションである場合は、ローカルコンソールを構成するキーボー ド、モニタ、およびマウスは、ここに接続します。 コンソールではUSBキーボードおよびマウスの任意の組み合わせが使用でき ます。

# 据付

## 概要

KVMアダプタケーブルは、KVMスイッチを接続されたデバイスに切り替えます。各コンピュータまたはデバイスの接続には、個別にKVMアダプタケーブルが必要です。



「KVMサーバーモジュール（KVMアダプタケーブル）およびLANケーブル」（4ページ）を参照してください。



**注意：**1.KVMスイッチを取り付ける前に、「安全について」（2ページ）を参照してください。

2.接続前にすべての機器の電源をオフにします。キーボード電源オン機能があるすべてのコンピュータの電源コードを外します。

## 幅

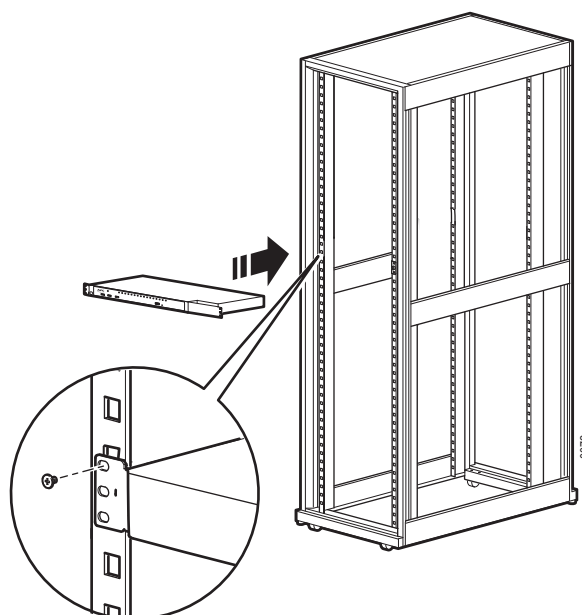


**注意：**十分な換気のために両側に少なくとも2インチ（5.1 cm）の隙間をあげ、電源コードおよびケーブルのクリアランスのために後側に5インチ（12.7 cm）の隙間をあげます。

スイッチは、19"（1U）ラックに取り付けることができます。取付ブラケットは、ラックの前面または背面に取り付けられるようにユニットの前面または背面にネジで固定することができます。

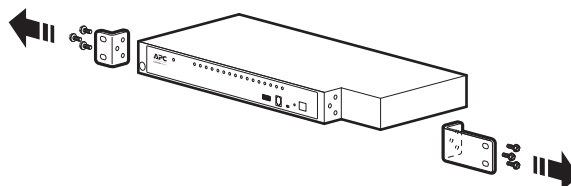
## ラックへの取り付け

1. KVMスイッチをラックの前面に位置決めします。取付ブラケットの穴とラックの穴を合わせます。
2. 取付ブラケットをネジでラックに固定します。

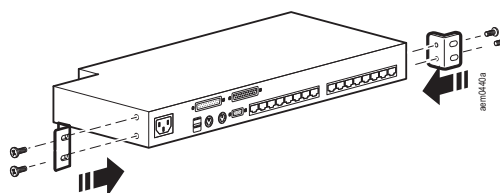


## ラックへの取付 - 背面

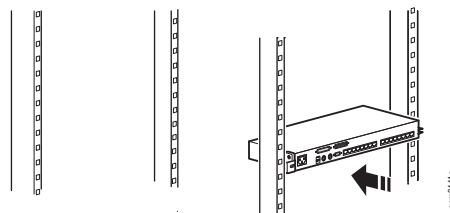
1. KVMスイッチの前部からブラケットを取り外します。



2. 小さいブラケットをKVMスイッチ前面から背面に取り付けます。同梱部品のラック取付ブラケットをKVMスイッチ背面の反対側に取り付けます。



3. KVMスイッチをラックの中にスライドさせます。取付ブラケットの穴とラックの穴を合わせます。
4. 取付ブラケットをラック背面に固定します。



## KVMスイッチのラックコンソール背面への取付 (オプション)

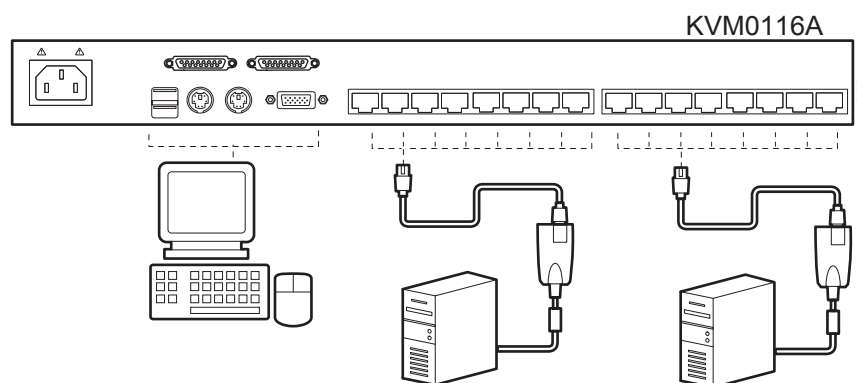
KVMスイッチは、ラックコンソール（別売りオプション）背面に取り付けることができます。詳細については、ラック・コンソール格納キットの取付シートを参照してください。

# 単一階層のKVMスイッチ取付

単一階層構成では、KVMスイッチからの階層を構成する追加のKVMスイッチはありません。ケーブル長の要件については、「ケーブル長に関する注意事項」（11ページ）を参照してください。

1. コンソールキーボード、モニタ、およびマウスをスイッチのコンソールポートに接続します。各ポートは色分けされ、容易に識別できるようにアイコンが付けられています。
2. Cat 5e/6ケーブルを使用して、インストールするコンピュータに適したKVMサーバーモジュール（KVMアダプタケーブル）を使用可能なKVMポートに接続します（「KVMサーバーモジュール（KVMアダプタケーブル）およびLANケーブル」（4ページ）を参照）。
3. KVMアダプタケーブルのコネクタを該当するサーバーポートに接続します。
4. 同梱の電源コードをスイッチの電源ソケットに差し込み、次にAC電源に接続します。
5. サーバーの電源を入れます。

## 単一階層の取付図



# 複数のKVMスイッチの階層構造

さらに多くのコンピュータ（最大31台）に接続するには、追加のKVMスイッチを元のKVMスイッチからの階層構成にすることができます。最大512台のコンピュータの設定環境全体を1つのコンソールから管理することができます。



階層構成で設置できるスイッチのリストや、コンピュータの台数とそれを制御する必要があるKVMスイッチ数との関係については、「接続テーブル」（33ページ）を参照してください。

## チェーン階層取付をセットアップするには：

1. ケーブルセットを使用して親KVMスイッチのチェーンアウトポートを子KVMスイッチのチェーンインポートを接続します（第一階層の出力を第二階層の入力へ接続し、第二階層の出力を第一階層の入力に接続するなど）。

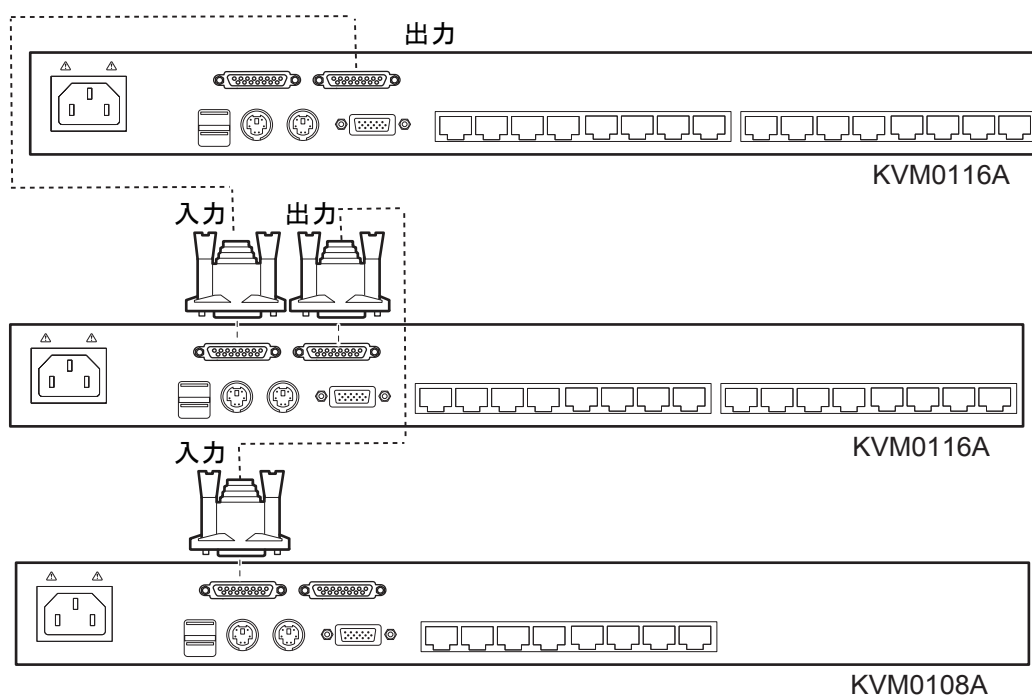


**注意：**1. 第一階層は最上位階層（親）スイッチであるため、第一階層のチェーンインポートは使用できません。

2. チェーン階層用ケーブルセットは別売りオプションになります。

2. KVMアダプタケーブルを、単一階層構成に従ってサーバーとスイッチに接続します（「単一階層のKVMスイッチ取付」（9ページ）を参照）。
3. チェーンに追加する必要のあるその他のKVMスイッチについても、上記の手順を繰り返します。
4. 以下の手順に従って、設置したシステムに電源を投入します。
  - a. 第1階層KVMスイッチの電源コードを接続します。KVMスイッチがステーションIDを確認し、ステーションID LEDにそれが表示されるまで待ちます（第1階層のステーションIDが01、第2階層のIDが02、第3階層のIDが03など）。
  - b. 設置システムの各階層ごとに順に電源オンにします（第2階層、第3階層など）。各段階で、次の階層のスイッチの電源をオンにする前に、ステーションIDが確認され、LEDに表示されるのを待ちます。
  - c. すべてのKVMスイッチが作動状態となった後で、各コンピュータへ電源を投入します。

## チェーン階層取付図





# ハードウェアのセットアップ

## ケーブル長に関する注意事項



**注意：**KVMサーバーモジュールは、KVMアダプタケーブルとも呼ばれます。

- KVMスイッチとローカルモニタとの間の距離は66フィート（20m）を超えないようにしてください。
- 1280x1024の解像度をサポートするため、KVMスイッチとKVMサーバーモジュール間の推奨最大距離は164フィート（50m）です。

## ホットプラグ

KVMアダプタケーブルは、KVMスイッチをシャットダウンせずにプラグを抜き差しして、取り外しおよび追加することが可能です。

古い親KVMスイッチから接続を外し、新しい親KVMスイッチに接続することにより、KVMスイッチの位置を変更します。その後、OSDメニューに変更を反映するため、ステーションIDをリセットします。「Reset Station IDS」（21ページ）を参照してください。

**KVMポートのホットプラグ** KVMポートを切り替えた後に、OSDメニューに変更を反映するために、新しいポート情報に関するOSD情報の再設定が必要になる場合があります。ポート名、OS、およびキーボード言語の設定は、以前に使用したアダプタケーブルから（ケーブルを接続した後に）KVMスイッチに復元されます。「F3:SET」（18ページ）を参照してください。また、ポート設定の選択については、「F4:ADM」（20ページ）を参照してください。



**注意：**1. サーバのOSがホットプラグをサポートしていない場合は、この機能は正常に動作しません。  
2. 以前にKVMアダプタケーブルに接続されていた空きポートは、以前の設定データを保持します。

**ホットプラグコンソールポート** キーボード、モニタ、およびマウスはホットプラグが可能です。ただし、マウスのホットプラグを行う場合は、以下の点に注意してください。

- マウスの接続を外した場合は（たとえば、マウスをリセットするためなど）、再び接続するときに前と同じマウスを使用する必要があります。
- 別のマウスを接続する場合は、設定環境のすべてのKVMスイッチとすべてのサーバーを10秒間シャットダウンしてから再起動する必要があります（「電源オフおよび再起動」（12ページ）を参照）。
- 古いOSでは、ホットプラグをサポートしていない場合があります。



ホットプラグをした後、または通常の操作をしている際に、製品がキーボードやマウスからの入力に反応しなくなった場合は、リセットスイッチ（p.5参照）を押してキーボードとマウスのリセットを実行してください。

## 電源オフおよび再起動

KVMスイッチの電源オフが必要な場合、またはKVMスイッチの電源が遮断され再起動が必要な場合は、再起動を行う前に、機器の障害を防ぐために以下の手順に従ってください。

1. Cat 5e/6ケーブルアダプタ（サーバーを接続する）をKVMスイッチの背面から取り外します。
2. 10秒間待ってから、KVMスイッチの電源をオンにします。複数のKVMスイッチをシャットダウンした場合は、最上位階層の電源を最初にオンにし、順次、下の階層の電源をオンにしていきます。次の階層の電源をオンにする前に、各KVMスイッチが前面パネルのLEDにステーションIDを表示するまで待ちます。
3. すべてのKVMスイッチの電源がオンになった後で、Cat 5e/6ケーブルを接続するか、コンピュータの電源をオンにします。

## ポートIDのナンバリング

各サーバーにはインストール時に一意のポートIDが割り当てられています。ポートIDは、サーバーに接続されているスイッチの階層とポート番号によって決定される、1つまたは2つのセグメント番号です。

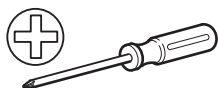
最初のセグメントはスイッチの階層を示し、2番目のセグメントはサーバーが接続されているポートの番号を示します。たとえば、階層の12番目の位置にあるスイッチのKVMポート3にサーバーが接続されている場合は、ポートIDは12-03になります。



**注意：**一桁の数字（1～9）は、前にゼロ（0）がつきます。

# アナログKVMスイッチの交換手順（作業時間：30分）

## 必要工具



プラスドライバー

※交換作業後は、システム管理者様にて再設定が必要となります。

設定方法については「オンスクリーンディスプレイ（OSD）操作（14ページ）」を参照ください。

1. 交換対象のKVMスイッチに接続された電源コード以外のケーブルを取り外します。なお、接続されているサーバーの電源を落とす必要はありません。（ただし、サーバー側でKVMアダプタケーブルの抜き差しを行う場合は、サーバー停止が必要です。）
2. 交換対象のKVMスイッチに接続された電源コードを取り外します。
3. 取り付けブラケットの左右各2本のネジを外してラックから取り外します。  
注意：取り外し時に落下させないように、しっかりと支えながらネジを取り外してください。
4. ラック背面に搭載の場合、取り付けブラケットをKVMスイッチから取り外します。
5. 交換用のKVMスイッチをラックに搭載します。  
ラック前面に取り付ける際は、「ラックへの取り付け（7ページ）」を参照ください。  
ラック背面に取り付ける際は、「ラックへの取付 - 背面（8ページ）」を参照ください。  
取り付けブラケットは[手順4]で取り外したブラケットを使用します。
6. KVMスイッチに[手順1]で取り外したケーブルを接続します。
7. KVMスイッチに電源コードを接続し、KVMスイッチを起動します。  
（電源コードを接続すると自動で電源が入りKVMスイッチが起動します）
8. 接続されたサーバーが参照可能であることをKVMスイッチのOSDより確認します。  
初期ユーザ名：**admin** 初期パスワード：**admin**
9. 複数の階層構成場合、ステーションIDのリセットを行います。
  - └ OSDのトップ画面
  - └ F4:ADM
  - └ "RESET STATION IDS"を選択
  - └ 実行

なお、詳細は「RESET STATION IDS（21ページ）」を参照してください。

10. KVMスイッチの設定を初期値より変更している場合、KVMスイッチの設定を行います。  
（システム管理者様作業）  
設定方法については「オンスクリーンディスプレイ（OSD）操作（14ページ）」を参照ください。

# オンスクリーンディスプレイ（OSD）操作

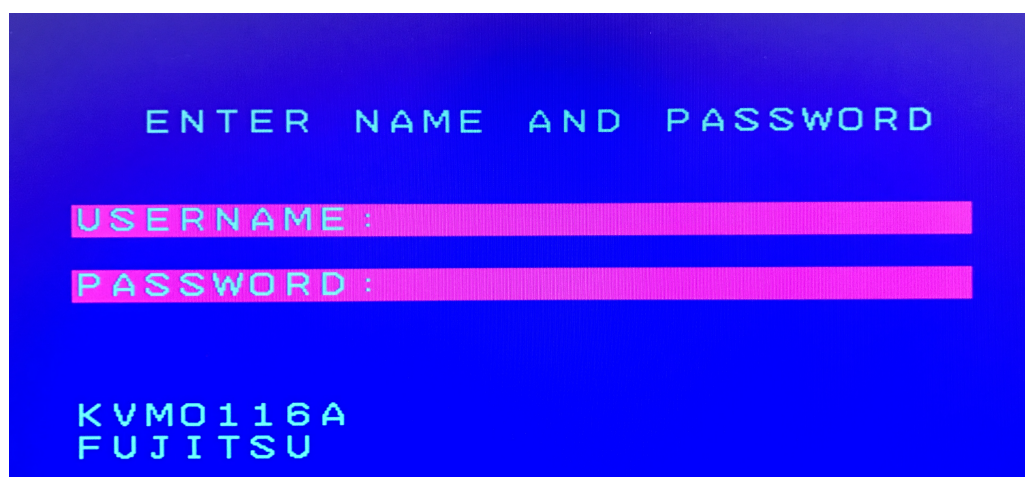
## 概要

オンスクリーンディスプレイ（OSD）は、メニューを使用してサーバーの制御および切り替え操作を行います。すべての手順は、OSDメイン画面から開始します。メイン画面を表示するには、OSDホットキーを2回タップします。デフォルトのホットキーは[SCROLL LOCK]です。ホットキーは、[CTRL]キーまたは[ALT]キーに変更できます（「OSDホットキー」（17ページ）を参照）。



**注意：**1.[CTRL]または[ALT]キーが使用されている場合は、もう一度同じ[CTRL]または[ALT]キーを押す必要があります。  
2.Num LockとCaps Lockは、OSDの実行中は常にオンになります。

OSDでは、2段階（管理者/ユーザー）のパスワードシステムを使用します。OSDメイン画面を開くには、有効なユーザー名およびパスワードが必要です。最初にOSDにアクセスした時は、デフォルトのユーザー名（**admin**）とパスワード（**admin**）が使用されます。セキュリティ上の理由から、最初にログインした後で、デフォルトのユーザー名とパスワードは独自のものに変更してください。



デフォルトのユーザー名とパスワードでログインした場合、OSDメイン画面は「管理者」モードで開きます。管理者は、すべての管理者およびユーザー機能にアクセスでき、操作をセットアップすることができます（その後のパスワード認証を含む）。

## OSDメイン画面「管理者」モード



注意：1.ユーザーメイン画面では、F4およびF6機能は表示されません。これらの機能は管理者専用で、一般ユーザーはアクセスできません。  
2.管理者が「アクセス可能」に設定したポートのみが、ユーザーメイン画面に表示されます。「Set Accessible Ports」（19ページ）を参照してください。

## OSD（オンスクリーンディスプレイ）のナビゲーション

- OSDを終了するには、OSDウィンドウの右上隅にある“X”（Close）を押すか、または[ESC]キーを押します。
- ログアウトするには、F8を押すか、またはメイン画面の上部にある“ZZZ”記号をクリックします。
- 特定のステーションのポートを表示するには、ステーション番号の前にあるプラス記号[+]を押します。ポート番号リストが開きます。リストを閉じるには、ステーション番号の前にあるマイナス記号[-]を押します。
- リスト内で上下方向に一行ずつ移動するには、上下方向の三角形の記号を押すか、または、上下方向の矢印キーを使用します。メイン画面の1画面に収まらないリストエントリがある場合は、リストがスクロールします。
- 一度に1画面分のリストを上下に移動するには、上下方向の矢印記号を押すか、[PAGE UP]および[PAGE DOWN]キーを使用します。メイン画面の1画面に収まらないリストエントリがある場合は、画面がスクロールします。
- ポートにフォーカスするには、ポートをダブルクリックするか、またはハイライトバーをポートに移動して[ENTER]を押します。

## OSDメイン画面の見出し

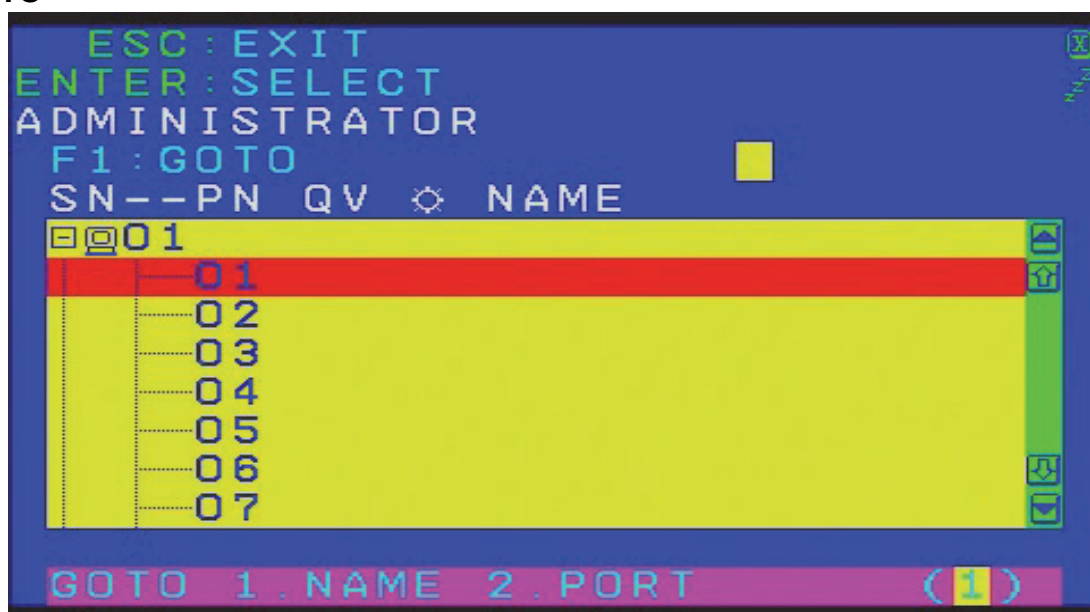
項目	説明
SN-PN	この列には、設置されているすべてのKVMポートのポートID番号（ステーション番号-ポート番号）のリストが表示されます。特定のコンピュータにアクセスする最も簡単な方法は、コンピュータをダブルクリックするか、またはハイライトバーをコンピュータに移動して[ENTER]を押します。
QV	ポートがQuick Viewスキャンに選択されている場合は、この列に矢印が表示されます。
太陽の形の記号	電源がオンでオンラインのコンピュータは、この列に太陽の形の記号が表示されます。
Name	ポートに名前がある場合は、この列にポート名が表示されます。

## OSD（オンスクリーンディスプレイ）の各機能

OSDの各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、キーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、[ENTER]キーを押してください。
3. [ESC]キーを押すと、1段階上のメニューに戻ります。

### F1:GOTO



GOTO機能を使用して、ポート名またはポートIDを入力してポートに直接切り替えます。

- 名前を入力する方法を使用するには、“1”、ポート名を入力し、[ENTER]を押します。
- ポートIDを入力する方法を使用するには、“2”、ポートIDを入力し、[ENTER]を押します。



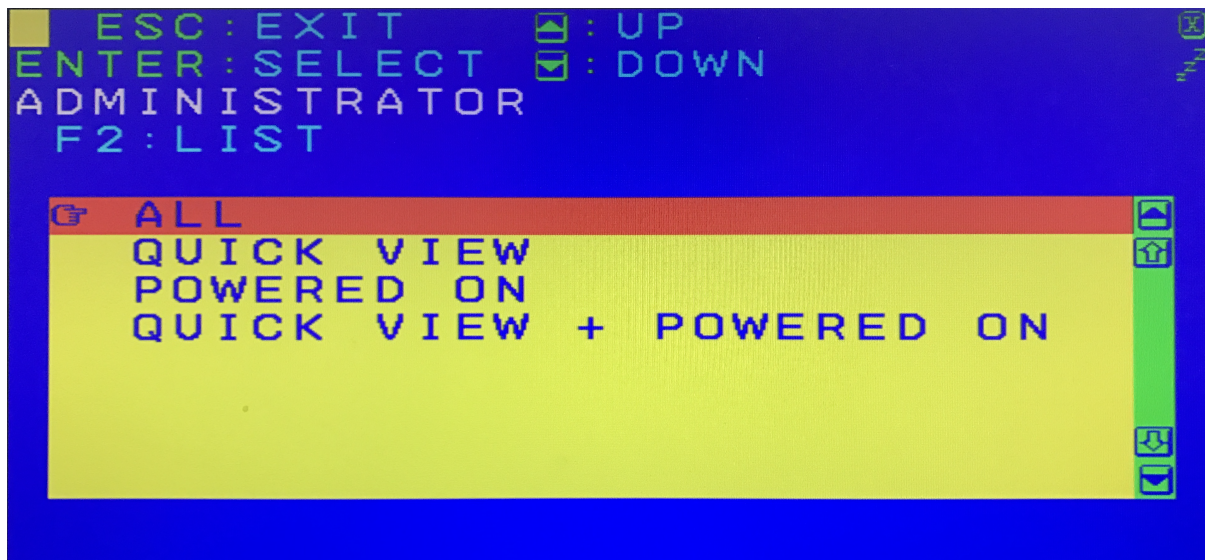
**注意：**名前またはポートIDの一部を入力することもできます。現在のリスト設定に関わりなく、名前またはポートIDパターンに一致する、ユーザーがView権限をもつすべてのコンピュータが画面に表示されます。

- 選択を行わずにOSDメインメニューに戻るには、[ESC]キーを押します。



## F2:LIST

KVMスイッチのOSD機能の多くは、現在選択されているサーバーでメイン画面のリストの操作のみを行います。この機能を使用して、リストに表示されるポートの範囲を拡大または縮小します。



リスト	説明
ALL	設置されているすべてのポートがリストに表示されます。
Quick View	Quick Viewポートとして選択されているポートのみがリストに表示されます。
Powered On	電源オンのコンピュータに接続されているポートのみがリストに表示されます。
Quick View + Powered On	Quick Viewポートとして選択され、電源オンのサーバーに接続されているポートのみがリストに表示されます。

ハイライトバーを目的のリストに移動し、[ENTER]を押します。リストの前にアイコンが表示され、リストが現在選択されていることを示します。

## F3:SET



管理者および各ユーザーは、個々の作業環境をセットアップすることができます。各オペレータに対する個々のプロファイルがOSDによって保存され、ログイン時に提示されるユーザー名に従って有効化されます。

設定を変更するには：

1. 設定をダブルクリックするか、またはハイライトバーを設定に移動し、[ENTER]を押します。
2. 項目を選択すると、詳細な選択項目を含むサブメニューが開きます。選択を行うには、選択項目をダブルクリックするか、またはハイライトバーを選択項目に移動して[ENTER]を押します。選択された項目の前にアイコンが表示されます。

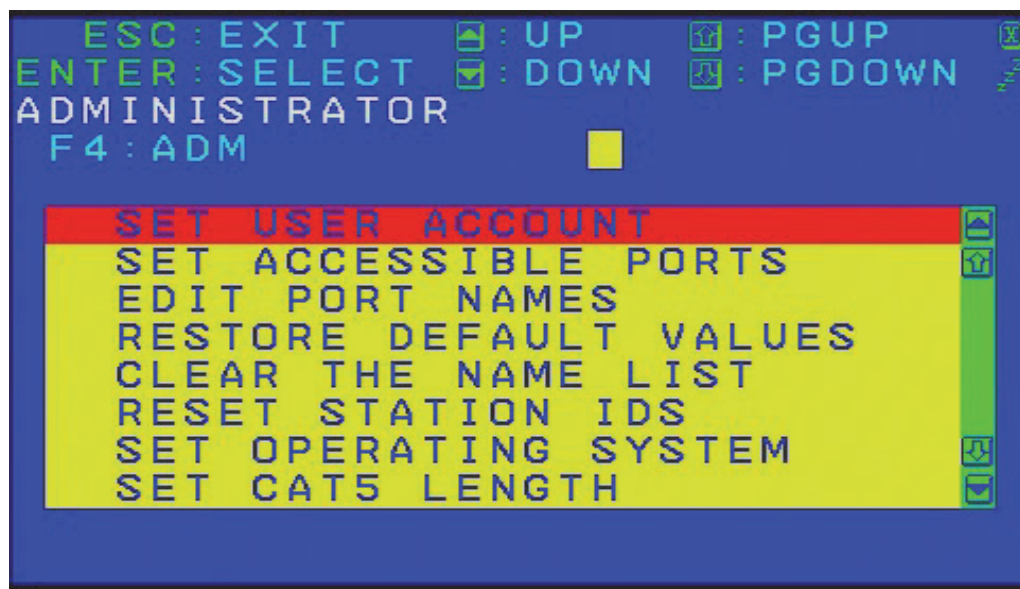
設定	機能
OSD Hotkey	以下のOSD機能を有効にするHOTKEYを選択します。[SCROLL LOCK] [SCROLL LOCK]; [CTRL] [CTRL]または[ALT] [ALT]. [CTRL]または[ALT]キーの組み合わせがサーバーで実行中のプログラムと競合する場合があるため、デフォルトでは[SCROLL LOCK]との組み合わせが使用されます。
PORT ID Display Position	モニタ上のポートIDの位置デフォルトでは左上隅に表示されます。位置を変更する方法は次のとおりです。マウスまたは矢印キーに加え、PAGE UP、PAGE DOWN、HOME、END、および5（数字キーパッドでNUM LOCKをオフ）を使用してポートID表示の位置を変更してから、[ENTER]を押して位置を固定し、Setサブメニューに戻ります。
Port ID Display Duration	ポート変更を行った後にモニタにポートIDを表示する時間の長さを指定します。次の2つが選択できます。3秒間表示とオフ（非表示）。
Port ID Display Mode	次のポートIDの表示方法を選択します。ポート番号のみ（PORT NUMBER）、ポート名のみ（PORT NAME）、またはポート番号 + ポート名（PORT NUMBER + PORT NAME）デフォルトは、PORT NUMBER + PORT NAMEです。
Scan Duration	Auto Scanモードで選択されたポートを切り替えながら各ポートにかかる時間の長さを指定します。1～255秒の値を入力してから、[ENTER]を押します。デフォルトは5秒です。0（ゼロ）に設定するとスキャン機能が無効になります。



Scan/Skip Mode	<p>SkipモードとAuto Scanモードでアクセスするサーバーを選択します。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ALL - 設定されているすべてのポートにアクセス可能</li> <li>• QUICK VIEW - 「Accessible」に設定され、「Quick View Ports」として選択されているポートのみ</li> <li>• POWERED ON - 「Accessible」および「Powered On」に設定されているポートのみ</li> <li>• QUICK VIEW + POWERED ON - 「Accessible」に設定され、「Quick View Ports」および「Powered On」として選択されているポートのみ</li> </ul> <p>デフォルトは「ALL」です。</p>
Screenblinker	<p>この機能で設定された時間が過ぎてもコンソールから入力がない場合は、画面が非表示になります。1~30分の値を入力してから、[ENTER]を押します。0（ゼロ）に設定するとこの機能が無効になります。デフォルトは「OFF」です。</p>
Hotkey Command Mode	<p>コンピュータで実行中のプログラムと競合が発生した場合に、Hotkey機能を有効化/無効化します（「ホットキーの操作」（24ページ）を参照）。デフォルトは「ON」です。</p>
Hotkey	<p>ホットキー起動キーを選択します（「ホットキーの操作」（24ページ）を参照）。[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]を選択できます。</p> <p>デフォルトは[NUM LOCK] + [-]です。</p>
Set OSD Language	<p>OSDディスプレイの言語を設定します。デフォルトは「English」です。</p>
Set Console Keyboard	<p>コンソールキーボードのキーボード言語マッピングを設定します。デフォルトは「Auto」です。</p>
Set Logout Timeout	<p>この機能で設定された時間が過ぎてもコンソールから入力がない場合は、オペレータは自動的にログアウトになります。コンソールを再び使用するにはログインが必要です。これにより、元のオペレータがログアウトし忘れてサーバーにアクセスしていないときに他のオペレータがサーバーにアクセスすることができます。タイムアウト値を設定するには、1~180分の数字を入力し、[ENTER]を押します。数字が0（ゼロ）の場合は、この機能は無効になります。デフォルトは「Off」です。</p> <p><b>注意：</b> Set Login Modeが無効になっている場合は、この機能は機能しません（ページ21を参照）。</p>
Activate Beeper	<p>[Y]（はい）または[N]（いいえ）を選択します。この機能を有効にすると、ポートが変更された時や、Auto Scan機能を起動した時、またはOSDメニューで無効な入力があった場合にビーブ音が鳴ります。デフォルトは「ON」です。</p>
Set Quick View Ports	<p>管理者は、Quick Viewポートとして含めるポートを選択することができます。</p> <p>Quick Viewポートとしてポートを選択/選択解除するには、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーを選択項目に移動し、[スペースバー]を押します。ポートがQuick Viewポートとして選択されている場合は、メイン画面のリストのQV列に矢印が表示され、選択されていることを示します。ポートの選択を解除すると、矢印は消えます。Quick Viewオプションの1つをリスト表示に選択した場合、ここで選択したポートのみがリストに表示されます。Quick Viewオプションの1つを自動スキャンに選択した場合、ここで選択したポートのみが自動スキャンされます。</p> <p>デフォルトではポートは選択されません。</p>

## F4:ADM

F4の機能は管理者のみが使用できます。この機能にアクセスすることにより、管理者はOSDの操作全体を設定および管理することができます。設定を変更するにはダブルクリックするか、または上下方向の矢印キーを使用してハイライトバーを設定に移動し、[ENTER]を押します。



項目を選択すると、詳細な選択項目を含むサブメニューが開きます。選択項目をダブルクリックするか、またはハイライトバーを選択項目に移動し、[ENTER]を押します。選択された項目の前にアイコンが表示されます。

設定	機能
Set User Account	<p>この機能は、管理者およびユーザー名とパスワードを設定するために使用します。管理者アカウント1名とユーザーアカウント10名を設定できます。管理者フィールドまたはユーザーフィールドの1つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力できる画面が開きます。各ユーザーごとに、ユーザー名とパスワードを入力し、[ENTER]を押します。変更を中止するには、[ESC]キーを押します。最大文字列長：16文字 入力可能文字：アルファベット：A-Z、数字：0-9、記号：() :+/-/?. 空白 太陽の形のアイコンは、アカウントにデータが保存されていることを示します。</p> <p>以前のユーザー名またはパスワードを変更するには、作成したユーザーアカウントを選択し編集を行います。 作成されたユーザの削除は行えません。</p>
Set Accessible Ports	<p>この機能により、管理者はポートごとに設置されているサーバーへのユーザーアクセスをポートごとに定義することができます。</p> <p>各ユーザーごとに、ターゲットポートを選択し、[スペースバー]を押して以下の選択項目を切り替えます。F（フルアクセス）、V（表示のみ）、またはN（アクセスなし）すべてのアクセス権が設定されるまで上記の手順を繰り返してから、[ESC]を押します。デフォルトでは、すべてのユーザーに対してすべてのポートで「F」に設定されています。</p> <p><b>注意：</b>「N」設定は、アクセス権が何も許可されていないことを意味します。このポートは、メイン画面のユーザーのリストには表示されません。</p>

Edit Port Names	<p>特定のポートにどのサーバーが接続されているかを識別するために、各ポートに名前を割り当てることができます。</p> <p>この機能により、管理者はポート名を作成、変更、または削除することができます。</p> <p>ポート名を割り当てるには：ポートをクリックするか、またはナビゲーションキーを使用してハイライトバーをポートに移動し、[ENTER]を押します。</p> <p>編集が完了したら、[ENTER]を押して変更を反映させます。変更を中止するには、[ESC]キーを押します。</p> <p>最大文字列長：15文字</p> <p>入力可能文字：アルファベット：A-Z、数字：0-9、記号：() :+/-/? , . 空白</p>
Restore Default Values	この機能は、アカウント情報及びポート名を除く変更を取り消し、工場デフォルト設定に戻します。
Clear the Name List	この機能は、ポート名のリストをクリアします。
Reset Station IDS	この機能は、OSDに対して設定環境全体のステーションの位置を再スキャンし、OSDステーション情報が新しい物理レイアウトに対応するようにOSDを更新します。
Set Operating System	<p>各ポートに接続されているサーバーのOSを指定します。設置されている各ポートごとに設定する必要があります。各ポートごとに、[スペースバー]を押して選択項目（WIN、Mac、またはSun）を切り替えます。すべてのポートが設定されるまで上記の手順を繰り返してから、[ESC]を押します。デフォルトは「WIN」です。</p> <p>（WIN：Windows OS）</p> <p><b>注意：</b>コンピュータが接続されているポートに正しいOSが設定されていない場合は、SunまたはMacコンピュータは、初回起動時に起動しない場合があります。</p>
Set Cat 5 Length	<p>ポートとKVMアダプタケーブル間のCat 5e/6ケーブルの長さを指定します。</p> <p>[スペースバー]を押すと、ケーブル長の設定が切り替わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• S:短 - 最大25 mまで</li> <li>• M:中 - 20 m～35 m</li> <li>• L:長 - 35 m超</li> </ul> <p>S、M、Lはポートの横に表示され、選択されたケーブル長を示します。</p>
Set Keyboard Language	<p>各ポートに接続されたサーバーのキーボード言語のレイアウトを設定します。</p> <p>[スペースバー]を押すと、選択項目が切り替わります。デフォルトは「英語」（米国）です。</p>
FIRMWARE UPGRADE	<p>本装置では使用しません。</p> <p>FIRMWARE UPGRADEモードを有効にした場合、リセットスイッチを押して装置を再起動します。</p> <p>複数階層の構成の場合、全ての装置を再起動します。</p>
ADAPTER UPGRADE	<p>本装置では使用しません。</p> <p>FIRMWARE UPGRADEモードを有効にした場合、リセットスイッチを押して装置を再起動します。</p> <p>複数階層の構成の場合、全ての装置を再起動します。</p>
Set Login Mode	<p>この機能により、管理者はユーザーにログインを要求する、またはログインを要求しないことができます。ログインダイアログボックスが無効になっている場合は、システムによってログイン/ログアウト機能が無効化されています。システムが再起動した場合は、ログイン/ログアウト機能は無効になります。</p>

## F5:SKP

後または前に移動して、現在アクティブなKVMポートから前または次にアクセス可能なポートにコンソールフォーカスを切り替えます。

- Skipモード切り替えでアクセス可能なサーバーの選択は、F3:SET機能のScan/Skipモードの設定を使用していきます。
- Skipモードにしてから、
  - 左矢印を押すと、アクセス可能な前のポートに移動します。
  - 右矢印を押すと、アクセス可能な次のポートに移動します。
  - 上矢印を押すと、各ステーション（階層）のアクセス可能な最後のポートに移動します。
  - 下矢印を押すと、各ステーション（階層）のアクセス可能な最初のポートに移動します。



**注意：**スキップを行う場合、Scan/Skipモード選択項目に入っている使用可能な前または次のサーバーにのみ移動します（「Scan/Skip mode」（19ページ）を参照）。

- ポートがScan/Skipモードに選択されている場合、左/右向きの三角形の記号がポートID表示の前に表示されます。
- Skipモードを終了するには、[スペースバー] または[ESC]キーを押します。

## F6:BRC

F6の機能は管理者のみが使用できます。この機能が有効になっている時、コンソールから送られたコマンドは設置されているすべての使用可能なサーバーにブロードキャストされます。

この機能は、複数のサーバーで実行する必要がある操作を行う場合に便利です（システム全体のシャットダウンの実行やソフトウェアのインストールまたはアップグレードなど）。

BRCは、F2:LIST機能と連動しています。List機能（「F2:LIST」（17ページ）を参照）は、OSDメイン画面上に表示されるポートのフォーカスを拡大または縮小するために使用されます。コマンドをブロードキャストする場合は、OSDメイン画面上に現在表示されているポートに対して行われます。

- BRCモードが有効になっている間、スピーカの記号が現在コンソールフォーカスがあるポートのポートID表示の前に表示されます。
- BRCモードが有効になっている間は、マウスは通常の時のように機能しません。マウスのコントロールを元に戻すには、BRCモードを終了する必要があります。
- BRCモードを終了するには、OSDを起動し（OSDホットキーを使用）、次にF6フィールドをクリックするか、[F6]を押します。

## F7:SCAN

この機能は、一定の間隔で使用可能なサーバー間を自動的に切り替えるため、各サーバーを手動で切り替えることなくそれぞれの動作を監視することができます。

- 自動スキャンモードに含まれるサーバーの選択は、F3:SET機能（「F3:SET」（18ページ）を参照）のScan/Skipモードの設定を使用して行います。
- 各ポートが表示される時間の長さは、F3:SET機能（「F3:SET」（18ページ）を参照）のScan Durationの設定を使用して設定されます。
- 各サーバーがアクセスされると、ポートID表示の前に「S」が表示され、そのポートがAuto Scanモードでアクセスされていることを示します。
- Auto Scanモードの間、特定のサーバーへのフォーカスを維持するために、[P]を押すか、またはマウスの左クリックを使用してスキャンを一時停止することができます。スキャンを再開させるには、任意のキーを押すか、もう一度左クリックします。
- Auto Scanモードが有効になっている間は、コンソールは通常の時のように機能しません。Auto Scanモードを終了し、コンソールのコントロールを元に戻します。
- Auto Scanモードを終了するには、[スペースバー] または[ESC]キーを押します。

## F8:LOGOUT

F8フィールドをクリックするか、または[F8] キーを押して、OSDをログアウトしてコンソール画面を非表示にします。この操作は、[ESC]キーを押してメイン画面からOSDを無効にするのとは異なります。

この機能では、OSDに再びアクセスするには初めからログインをやり直す必要があります。（[ESC]キーを押した場合は、OSDホットキーをタップするだけで、OSDに再びアクセスすることができます。）



**注意：**1.ログアウトした後でOSDに再びアクセスする場合は、ログインダイアログボックスを除き、画面は非表示の状態になります。操作を続行する前に、ユーザー名とパスワードを入力します（「オンスクリーンディスプレイ（OSD）操作」（14ページ）を参照）。管理者によってログインが無効化されている場合は、F8機能も無効化されています。

2.ログアウトした後にOSDに再びアクセスし、OSDメニューからポートを選択せずに、直ちに[ESC]キーを使用してOSDを無効化する場合は、Null Portメッセージが画面に表示されます。OSDホットキーをタップすると、OSDメイン画面が開きます。

# ホットキーの操作

---

## ホットキーポート制御

ホットキーポート制御により、キーボードから直接、特定のサーバーにKVMフォーカスを与えることができます。KVMスイッチには、以下のホットキーポート制御機能があります。

- 有効なポートの選択方法
- Auto Scanモードの切り替え
- Skipモードの切り替え

以下の設定は、Hotkeyモードでも制御できます。

- ビープ音の設定
- Quick Hotkeyの設定
- OSD Hotkeyの設定
- Port Operating Systemの設定
- OSDのデフォルト値の復元

## Hotkeyモードの起動

Hotkeyモードが有効の場合すべてのホットキー操作は、Hotkeyモードを起動してから開始します。（HOTKEY COMMAND MODE (p.19) を参照）

Hotkeyモードを起動するには、以下に示す2通りのキーストロークシーケンスが使用できます。（HOTKEY (p.19) を参照）。

以下のキーシーケンスの1つのみが操作できます

### **[NUM LOCK] + [-]**

1. [NUM LOCK]キーを押したまま、
2. [MINUS]キーを押して放します。
3. [NUM LOCK]キーを放します。

### **[CTRL] + [F12]**

1. [CTRL]キーを押したまま、
2. [F12]キーを押して放します。
3. [CTRL]キーを放します。

## Hotkeyモードの環境

Hotkeyモードが有効な場合は次のようになります。

- モニタ画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインプロンプトは、青のバックグラウンドに白い文字で「Hotkey」という語が表示され、その後に入力されたホットキー情報が表示されます。
- キーボードとマウスの通常機能は、Hotkeyモード中には無効となります。Hotkeyの設定に従ったキーストロークのみが入力可能です。

## Hotkeyモードの終了

Hotkeyモードを終了するには[ESC]を押します。

## 有効なポートの選択方法

各サーバーポートにはポートIDが割り当てられます（「ポートIDのナンバリング」（12ページ）を参照）。サーバーが接続されているポートIDを指定するホットキーの組み合わせを使用して、任意のサーバーに直接アクセスすることができます。

有効なポートを選択するには：

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. ポートIDを入力します。ポートIDを入力するとコマンドラインにID番号が表示されます。間違いを消去するには、[BACKSPACE]を使用します。
3. [ENTER]を押して、指定されたコンピュータへのKVMスイッチにフォーカスすると、自動的にHotkeyモードが終了します。



**注意：** Hotkeyモードでは、無効なスイッチまたはポート番号が入力された場合は、KVMフォーカスはポートに切り替わりません。Hotkeyコマンドラインは、有効なスイッチとポート番号の組み合わせが入力されるか、Hotkeyモードが終了するまで表示され続けます。

## Auto Scanモードの切り替え

Auto Scanは、現在ログオンしているユーザーがアクセス可能なすべての有効なコンピュータポートの間で、一定の間隔で自動的に切り替わります。これにより自動的な監視が可能になります。Auto Scanについては、「F7:SCAN」（23ページ）を参照してください。

### スキャン間隔の設定

各ポートごとにAuto Scanが実行される時間の長さは、OSD F3:SET機能（「F3:SET」（18ページ）を参照）の「Scan Duration」の設定を使用して設定されます。スキャン間隔は、以下のホットキーの組み合わせを入力することにより、Hotkey Auto Scanningを起動する前に変更することができます。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. [A][N]を入力します。  
（[A]は文字のAで、[N]は秒単位でフォーカス時間の長さを示す1～255の数字です）。
3. [ENTER]を押すと自動スキャンが開始されます。

## 自動スキンの起動

自動スキンモードを起動するには、以下のホットキーの組み合わせを入力します。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. [A] + [ENTER]キーを押すと自動スキンが開始されます。

## 自動スキンの終了

Auto Scanモードを終了するには、[ESC]または[スペースバー]を押します。Auto Scanを終了すると、スキンを中止します。

# Skipモードの切り替え

監視を行うサーバーを手動で切り替えます。一定の間隔で自動的にポートフォーカスを切り替える自動スキンとは異なり、特定のポートに必要なだけ長くフォーカスすることができます。

Skipモードについては、「F5:SKP」（22ページ）を参照してください。

## スキップモードの開始

Skipモードを開始するには、以下のホットキーの組み合わせを入力します。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. 矢印キーを押すと、Hotkeyモードが自動的に終了し、Skipモードになります。
  - 左矢印を押すと、アクセス可能な前のポートに移動します。
  - 右矢印を押すと、アクセス可能な次のポートに移動します。
  - 上矢印を押すと、各ステーション（階層）のアクセス可能な最後のポートに移動します。
  - 下矢印を押すと、各ステーション（階層）のアクセス可能な最初のポートに移動します。
3. Skipモードの間は、矢印キーを押せばスキップを続けます。[NUM LOCK] + [-]の組み合わせを再び使用する必要はありません。
4. Skipモードの実行中は、キーボードとマウスの通常の機能が一時的に停止します。Skipモードに従ったキーストロークのみが入力可能です。Skipモードを終了し、コンソールの通常の制御に戻ります。

## Skipモードの終了

Skipモードを終了するには、[ESC]または[スペースバー]を押します。



## Hotkeyビープ音のオン/オフの設定

ホットキーでビープ音（「Activate Beeper」（19ページ）を参照）をオン/オフします。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. ビープ音のオン/オフを切り替えるには[B]を押します。コマンドラインに1秒間、“Beeper On”または“Beeper Off”が表示されてからメッセージが消え、Hotkeyモードは自動的に終了します。

## Hotkeyのキーの組み合わせの設定

Hotkeyモード（「ホットキーの操作」（24ページ）を参照）に入るために使用するキーを切り替えます。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. [H]を押すと、コマンドラインに“Hotkey has Been Changed”が1秒間表示されてからメッセージが閉じ、Hotkeyモードが自動的に終了します。

## OSD Hotkeyの組み合わせの設定

OSD（「OSD Hotkey」（18ページ）を参照）へのアクセスに使用するホットキーは、[SCROLL LOCK]、[SCROLL LOCK]、[CTRL]、[CTRL]、および[ALT]、[ALT]の間を切り替えることができます。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. [T]を押すと、コマンドラインに“Hotkey has Been Changed”が1秒間表示されてからメッセージが閉じ、Hotkeyモードが自動的に終了します。

# Port Operating Systemの設定

ポートのOS設定をポートに接続されているコンピュータのOS設定に一致させます。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. 以下のファンクションキーの1つを押します。

キー	説明
F1	ポートOSをWindowsに設定します。
F2	ポートOSをMacに設定します。
F3	ポートOSをSunに設定します。

ファンクションキーを押した後に、Hotkeyモードは自動的に終了します。

## デフォルト値の復元

管理者のみが使用可能なこのホットキーを使用して、KVMスイッチのデフォルト値（「Restore Default Values」（21ページ）を参照）を復元します。

1. Hotkeyモードを起動します（[NUM LOCK] + [-]または[CTRL] + [F12]）。
2. [R]を押します。
3. [ENTER]を押すと、コマンドラインに“Reset to Default Setting”が3秒間表示されてからメッセージが閉じ、Hotkeyモードが自動的に終了します。









# ホットキーの早見表

[NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12]	[A] [N] [ENTER] [N]はスキャン間隔 : 1~255 (省略可)	以下の手順で、Auto Scanモードを起動します。 Auto Scanモードが有効な間は、[P]または左クリックで自動右スキャンを一時停止します。 自動スキャンが一時停止中は、任意のキーまたは左クリックで自動スキャンを再開します。
	[B]	ビーパー機能のオン/オフを切り替えます。
	[ESC]または [スペースバー]	Hotkeyモードを終了します。
	[F1]	OSをWindowsに設定します。
	[F2]	OSをMacに設定します。
	[F3]	OSをSunに設定します。
	[H]	ホットキー起動キーをトグルします。
	[ポートID] [ENTER]	ポートIDに対応するコンピュータへのアクセスを切り替えます。
	[R] [ENTER]	管理者のみが使用可能なホットキーです。スイッチの設定をデフォルト値に戻します。
	[T]	OSDホットキーを[CTRL] [CTRL]および[SCROLL LOCK] [SCROLL LOCK]の間で切り替えます。
	◀	Skipモードを起動して、現在のポートから最初にアクセス可能な前のポートに移行します。
	▶	Skipモードを起動して、現在のポートから次にアクセス可能なポートに移行します。
	▲	Skipモードを起動して、現在のポートから以前のステーションでの最後にアクセス可能なポートに移行します。
	▼	Skipモードを起動して、現在のポートから次のステーションでの最初にアクセス可能なポートに移行します。

# キーボードエミュレーション

## Macキーボード

PC互換（101/104キー）キーボードは、Macキーボードの機能をエミュレートできます。エミュレーションマッピングのリストは、以下の表に記載されています。



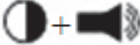



PCキーボード	Macキーボード
[SHIFT]	SHIFT
[CTRL]	CTRL
	
[CTRL] [1]	
[CTRL] [2]	
[CTRL] [3]	
[CTRL] [4]	
[ALT]	ALT
[PRINT SCREEN]	F13
[SCROLL LOCK]	F14
	=
[ENTER]	RETURN
[BACKSPACE]	削除
[INSERT]	ヘルプ
[CTRL] 	F15



**注意：**キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー [CTRL] を押して放し、次にアクティベーションキーを押して放します。

## Sunキーボード

PC互換（101/104キー）キーボードは、コントロールキー[CTRL]を他のキーと組み合わせて使用すると、Sunキーボードをエミュレートすることができます。対応する機能を以下に示します。

PCキーボード	Sunキーボード
[CTRL] [T]	停止
[CTRL] [F2]	Again
[CTRL] [F3]	Props
[CTRL] [F4]	Undo
[CTRL] [F5]	前面
[CTRL] [F6]	Copy
[CTRL] [F7]	Open (開く)
[CTRL] [F8]	Paste
[CTRL] [F9]	Find
[CTRL] [F10]	Cut
[CTRL] [1]	
[CTRL] [2]	
[CTRL] [3]	
[CTRL] [4]	
[CTRL] [H]	ヘルプ
	Compose
	Meta



**注意：**キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー（CTRL）を押して放し、次にアクティベーションキーを押して放します。

# トラブルシューティング

---

## 概要

操作上の問題はさまざまな原因が考えられます。問題解決の第一歩は、すべてのケーブルがしっかりと接続され、ソケットに完全にはめ込まれていることを確認することです。

問題	解決方法
マウスまたはキーボードが反応しない	コンソールポートからケーブルを抜き、もう一度接続します。
すべてのステーションIDが01に表示される	ステーション1の電源が突然切れるシステムがステーションの再初期化シーケンスを実行し、正しいIDを表示するのを数秒待ちます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ステーションIDのリセットを実行します（「Restore Default Values」（21ページ）を参照）。</li><li>• チェーン接続ケーブルを抜き、もう一度接続します。</li></ul>

# OSDの工場デフォルト設定

設定	デフォルト
OSDホットキー	[SCROLL LOCK] [SCROLL LOCK]
ポートIDの表示位置	左上隅
ポートIDの表示時間	3秒
ポートIDの表示モード	ポート番号 + ポート名
スキャン時間	5秒
Scan/Skipモード	全機種
スクリーンブランカ	OFF
Hotkey Commandモード	ON
ホットキー	[NUM LOCK] + [-]
ログアウトタイムアウト	OFF
[Beeper]	ON
アクセス可能なポート	F（フルアクセス）、すべてのユーザーによるすべてのポートへのアクセス
運転モード	共有
OSDの言語	英語

## 接続テーブル

以下の表に、KVM0108A / KVM0116Aユニットの番号と、これらのユニットが制御するコンピュータの番号の間の関係を示します。

### KVM0108A

番号	サーバー	番号	サーバー	番号	サーバー	番号	サーバー
1	1-8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201 - 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49- 56	15	113 - 120	23	177- 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

### KVM0116A

番号	サーバー	番号	サーバー	番号	サーバー	番号	サーバー
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97- 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512

# 仕様

機能			KVM0108A	KVM0116A
コンピュータへの接続部	直接		8	16
	最大		256	512
コネクタ	コンソールポート (背面)	キーボード	2 x 6ピンミニDINメス型 (紫) 2 x USB (黒)	2 x 6ピンミニDINメス型 (紫) 2 x USB (黒)
		ビデオ	2 x HDB-15メス型 (青)	2 x HDB-15メス型 (青)
		マウス	2 x 6ピンミニDINメス型 (緑) 2 x USB (黒)	2 x 6ピンミニDINメス型 (緑) 2 x USB (黒)
	コンソールポート (前面)	ラックLCD コンソール	15ピンDINメス型	15ピンDINメス型
	KVMポート		8 x RJ-45 (黒)	16 x RJ-45 (黒)
	電源		1 x IEC C14	1 x IEC C14
	チェンイン/アウト		シリアルメス型	シリアルメス型
スイッチ	リセット		1 x 凹型プッシュボタン	1 x 凹型プッシュボタン
LED	[Port]		16 (緑/赤/オレンジ)	16 (緑/赤/オレンジ)
	電源		1 (青)	1 (青)
	ステーションID		1 (オレンジ)	1 (オレンジ)
ビデオ			1600x1200 @ 60Hz	1600x1200 @ 60Hz
I/P定格			100~240VAC、50/60Hz; 1.0A	100~240VAC、50/60Hz; 1.0A
電力消費			最大20.6 W	最大20.6 W
環境	動作温度		32°F ~ 122°F (0 ~ 50°C)	32°F ~ 122°F (0 ~ 50°C)
	保管温度		-4°F ~ 140°F (-20°C ~ 60°C)	-4°F ~ 140°F (-20°C ~ 60°C)
	湿度		0~80%、結露のないこと	0~80%、結露のないこと
特性	ケース		金属製	金属製
	質量/梱包時質量		7 lbs.(3.2 kg) / 10.4 lbs. (4.7 kg)	7 lbs.(3.2 kg) / 10.4 lbs. (4.7 kg)
	寸法 (奥行x幅x高さ)		16.6インチ (42.4cm) x 9.4インチ (23.8cm) x 1.67インチ (4.25 cm) (19" 1U)	16.6インチ (42.4cm) x 9.4インチ (23.8cm) x 1.67インチ (4.25 cm) (19" 1U)



# 電波障害



担当機関の明示的な承認を受けずに本製品を改変すると、本製品の運用権が取り消される可能性があります。

## 米国 - FCC

本製品は FCC 規則パート 15 のクラス A デジタル機器基準に準拠しています。これらの基準は機器を商用環境で運用する際に、有害な干渉から保護することを目的に策定されています。本製品は無線周波エネルギーを生成および使用、放射しています。ユーザマニュアルの指示に従って適切に取り付けて使用しないと、無線通信の障害となる干渉が発生する可能性があります。本製品を住宅地で利用する場合、有害な干渉が発生する可能性があります。このような干渉の解消についてはユーザ本人がその責務を負います。

## カナダ - ICES

このクラス A デジタル装置はカナダの ICES-003 に準拠しています。

This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

*Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.*

## 日本 - VCCI

本品は、IT 機器の分野で VCCI（情報処理装置等電波障害自主規制評議会）標準に準拠した Class A 製品です。この機器を住宅地で使用すると、電波障害が発生することがあります。このような場合、ユーザは障害の解決を求められる可能性があります。

## 台湾 —BSMI

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

## Korean 한국

A 급 기기 ( 업무용 방송통신기기 )

이 기기는 업무용 ( A 급 ) 으로 전자파적합등록을 한 기기이오니판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며 , 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다 .

## Australia and New Zealand

**Warning:** This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

## European Union

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility.

This product has been tested and found to comply with the limits for Class A Information Technology Equipment according to CISPR 32/European Standard EN 55032. The limits for Class A equipment were derived for commercial and industrial environments to provide a reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

**Warning:** This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

